

# 「クイックデッキ」が県内初導入

## 作業場確保と工期縮減に効果 チェーンピッチ最大5m対応

川田建設(株)は、西日本高速道路(株)九州支社が発注した宜野座村の福地川橋床板取り替え工事でシステム吊り足場「クイックデッキ」による施工を進めている。同足場は、日綜産

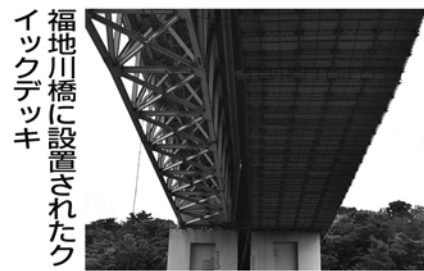


2.5mピッチで設置された高強度チェーン  
(提供：日綜産業)

業(株)が製造販売を行っている、県内では那覇鋼材(株)が代理店として展開するもので、今回初めて県内の現場に導入された。13日には、日綜産業の担当者らが現場で足場の説明会を行

い、高い機能性をアピールした。

クイックデッキは、トラス構造による高い強度と軽量化を実現したジョイント(主梁)と高強度チェーンを組み合わせた吊り足場。高い部材剛性と水平旋回式の組立方法により、吊点から跳ね出し最大5mまでの先行床



福地川橋に設置されたクイックデッキ

施工も可能で、作業床を高所での危険作業なしで安全に施工することができ、最大積載荷重350kg/m<sup>2</sup>、最大吊チェーンピッチ5m×5mに対応。さらに、最大12・5m×7・5mの床ユニットは4点吊り上げが可能なので、地上での地組作業で高所作業を最小限にすることで安全性の確保と工期縮減が期待できる。

見学会で川田建設の臂公博現場代理人は、一般的吊り足場では、概ね90センチピッチで足場を吊るチェーンを掛ける必要があるが、福地川橋(トラス橋3径間・橋長229m)は、チェーンを掛けるフランジが殆どないことから、2・5m×5mピッチで対応可能な「クイックデッキ」を採用したと説明。「基本構成部材はシステム化されているので、専

用工具を必要とせずスピーディーに組み上げることができる。同現場では約2400mのクイックデッキを導入したが、一般的な単管足場と比較しても3分の1程度の工程で組み上げた」と、工期の短

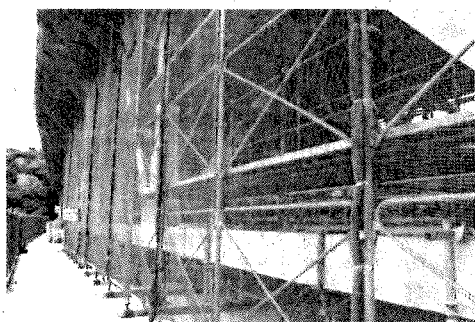
縮効果を強調。さらに、従来の足場よりも作業スペースが広く確保できるため、現場の安全性向上にもつながると指摘した。

日綜産業の大久保工広報室長は「クイックデッキは、国土交通省のNETISにも登録されるなど、その有用性が認められている。今後到来するメンテナンス時代に向けて、橋梁などの点検・補修工事においても市場拡大を図っていきたい」と話した。

### 日綜産業

# システム吊足場 「クイックデッキ」 沖縄で初採用

## トラス構造橋の補強工事



広い作業空間と高い耐荷重を生かして通常の足場を設営



福地川橋。現在はトラスの高力ボルトを取り替える中

【沖縄】軽仮設大手の日綜産業(本社「東京都中央区、小野大社長)は西日本高速道路(NEXCO西日本)九州支社発注の「沖縄自動車道(特定更新等福地川橋(上り線)他1橋床版取替工事)」に、先行床施工方式プロ

ア型システム吊足場「クイックデッキ」が約2400平方メートル採用されたと発表した。沖縄県での採用は初めて。

今回、床版を取り替える福地川橋が架かる沖縄自動車道石川インターチェンジ(ICC)許田ICC間は1975年に開通。開通後42年が経過していることに加え、十分な洗浄がなされないままの海砂を細骨材に使用したため塩害による損傷が顕著なため、床版をRCから版厚が薄く床版間のコンクリートを充填する間詰部の間隔が短いプレキャストPCに

取り替え、抜本的な補修・補強を行うことも

に軽量化を図る。また、同橋は桁下が高さ9.5メートルのトラス構造で、通常の作業車を使用した補修・補強が困難な現場。同構造の床版取り替えは全国初という。

クイックデッキは従来の吊り足場に比べて最大5×5メートル吊りチェーン間隔が広く、段差や隙間のない快適な作業空間を構築できる。広い作業空間と高い耐荷重を生かして同製品の上に通常の「くさび式足場」を組み立て、補修・補強を行う。受注後にクイックデッキの使用を提案した川田建設の現場代理人、曾公博氏は「トラス構造のためチェーン間隔が短い通常の足場では掛ける場所の確保が難しい。また、クラ

ンプやチェーンが多くなれば塗装の際などにタッチアップ(修整塗り)の箇所も多くなるが、その不安も低減するほか工程も短くなる」と語り、足場の組み立ては通常約2カ月で掛かるところを19日で済んだほか、補修・補強の作業効率についても「1.5〜2倍になるのでは」と期待。NEXCO西日本からの評価も高く、現場作業員の評判も良い」と話

す。

クイックデッキは国交省のNETIS(新技術情報システム)登録済み(登録番号「TH1150007」A)。14年6月の発表以来、納入・稼働中の現

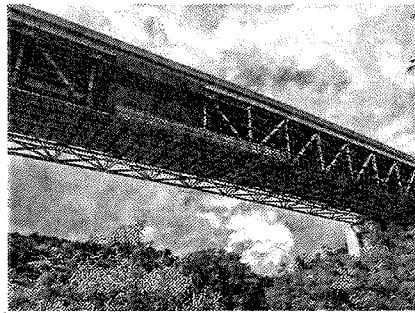
場は今年10月に250件を突破し、大型商業施設や工場天井部の新築・改修工事、新幹線高架の改修工事など幅広く採用されている。数多くの実績に加え、作業の安全確保や優れた機能性・施工性による品質向上をアピールし、老朽化により今後増加が見込まれる橋梁の点検・補修のほか、沖縄地区では格納庫などでも需要の捕捉を進めたい考え。

# 日刊建設工業新聞

## 橋梁補修につり足場 クイックデッキ採用

日綜産業、沖縄県内で初

日綜産業の新型システム  
つり足場「クイックデッキ」  
写真Ⅱが沖縄自動車道の  
橋梁の補修・補強工事で採  
用され、工期短縮や作業員  
の安全確保に寄与してい  
る。クイックデッキはこれ  
まで250件以上の工事現  
場で採用されているが沖縄  
県内での採用は初めて。  
採用されたのは西日本高  
速道路九州支社が発注し宜



野座村などで川田建設が施  
工中の「沖縄自動車道(特  
定更新等) 福地川橋(上り  
線)他1橋床版取替工事」。  
2カ所の橋梁の床版の架け  
替えを行うもので、このう  
ちトラス橋の床版架け替え  
では全国初となる福地川橋  
の上り線延長228.8mの工

事で2400平方m採用さ  
れた。

現場代理人の曾公博氏に  
よるとクイックデッキの採  
用により作業スペースの確  
保や鋼桁の補修の際のタッ  
チアップ数の少なさなどで  
利点があり、従来型に比べ  
3分の1程度の期間で足場  
を組むことができた。

これまで不可能だったつ  
り足場の上に仕上げ用足場  
を組めることもメリットと  
いい「19年2月という工期  
末の最後まで安全作業でク  
イックデッキを活用してい  
く」(曾氏)としている。  
日綜産業によるとクイッ  
クデッキは国土交通省の新  
技術情報提供システム(N

ETIS)に登録されてお  
り、今後も橋梁の点検・補  
修などの工事を中心に市場  
拡大を図っていく意向だ。

# 建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-13-7  
電話(03)3259-8711  
FAX(03)3259-8730  
©日刊建設通信新聞社 2017

## 床版取替に日綜産業 クイックデッキ採用

川田建設施工の  
福地川橋他1橋

NECCO西日本九州支社  
が発注し、川田建設が施工す  
る「沖縄自動車道(特定更新  
等)福地川橋(上り線)他1  
橋床版取替工事」で、日綜産  
業の先行床施工式フロア型シ  
ステム吊足場「クイックデッ  
キ」が採用され、現場の安全  
性や機能性、施工性の向上に  
効果を発揮している。写真。  
同工事はトラス橋の床版取  
り替え工事としては全国初と



なる。トラスは高さ9桁、間  
隔も8・1桁と大きく、従来  
型の細かいピッチではチェー  
ンが架けられないため、2・  
5-5・0桁の間隔でチェー

ンを飛ばせるクイックデッキ  
を約2400平方桁採用して  
いる。

川田建設の臂公博現場代理  
人は「作業空間の確保や鋼桁  
補修時のタッチアップ数の少  
なさに利点があり、架設スピ  
ードは従来型の3分の1程度  
で済んだ。従来技術では不可  
能だったつり足場の上に仕上  
げ用足場を組めるのも大きな  
利点だ」と話す。工期は20  
19年2月6日までとなつて  
おり、最後まで活用する予定  
だ。

クイックデッキは国土交通  
省のNETIS(新技術情報  
提供システム)に登録されて  
いる。技能労働者不足の解消  
にも役立つっており、これまで  
に納入・稼働中の現場は25  
0件を超えている。

# 週刊 鋼構造ジャーナル

2017

10/30 NO. 1846

発行(毎月) 日経建研 / 建設部・1年49,500円・6ヵ月27,000円(税・送料別) / 創刊55年9月29日 第三種郵便物認可 / 発行所 株式会社 鋼構造出版 発行人 田中賢二 編集人 大野俊 / 本社 東京都中央区日本橋本町2-2-2 三栄ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代) F A X 03(5642)7077 / 大阪支社 大阪府西区西本町1-13-3 本町クロスビル 〒550-0005 電話 大阪06(6536)2501(代) F A X 06(6536)7203 / 札幌支社 札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話 札幌011(872)7666 F A X 011(872)3636 / 埼玉支社 さいたま市浦和区東大宮2-10-14 〒330-0853 / 総編集長 田中 賢二 電話 03(5642)7011 F A X 03(5642)7077

## 機器・資材

### 日綜産業

## システム吊足場「クイックデッキ」

### 沖縄県の床版取替工事に採用

日綜産業(小野大社長、03・6891・3246)の先行床施工式フロア型システム吊り足場「クイックデッキ」が沖縄県宜野座村から名護市に架かる「沖縄自動車道路(特定更新等) 福地川橋(上り線) 他1橋床版取替工事」に約2400平方メートル採用されて

いる。沖縄県では初となる。同足場は、ジョイスト、ノード、デッキパネル、吊チェーンから構成された吊り足場で常に床を先行して設置する。アメリカの特許製品で一部を、同社の3Sシステム機能を付加した手すりや支柱、床材のたわみを防止する孫梁やアルミ

製の床板、オリジナル型幅木などの日本仕様に改良している。すでに新技術情報提供システム(NETIS)にも登録完了済み。福地川橋は1975年に開通した橋長約229メートルのトラス橋で、トラス高さ9メートル、トラス間隔が8・1メートルとなっている。海砂利用に

よる塩害損傷が顕著なことから抜本的な補修・補強対策として、床版架け替え工事を実施するもの。発注は西日本高速道路九州支社、施工は川田建設が担当して



福地川橋の架設状況



架設された福地川橋内部の様子

かいために厳しい状況のうえ、橋梁点検車でも届かないことから、吊りピッチ5メートルまで飛ばせるクイックデッキの採用となった。今回の現場では、作業スペースの確保、鋼桁補修の際のタッチアップ数の少なさ、作業空間の確保など高い評価を得ている。架設スピードは従来型の3分の1程度で済んだという。

